

中国産魚介類及びはちみつ中の抗生物質、合成抗菌剤検査結果

今夏、中国産水産食品の安全性について、不安の高まる事例が国内で複数確認されました。これを受けて、平成19年8月に食品専門監視班が収去した、すずき目魚類2件(赤魚、サバ)、甲殻類1件(エビ)、その他の魚介類1件(イカ)及び魚介加工食品3件(ボイルあさり、うなぎ長焼き、ボイル小柱)について、抗生物質4項目及び合成抗菌剤29項目の検査を行いました。また、はちみつ3件について抗生物質2項目の検査を行いました。その結果、表1及び表2に示したように、いずれの項目も不検出でした。

表1 魚介類及び魚介加工食品の検査結果

項目名	検出限界	食品名 (カッコ内の数字は基準値)			
		すずき目<2件>	甲殻類<1件>	他魚介類<1件>	加工食品<3件>
【抗生物質】					
オキシテトラサイクリン	0.02	N.D. (0.2)	N.D. (0.2)	N.D. (0.2)	N.D. (*)
クロルテトラサイクリン	0.03	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
テトラサイクリン	0.02	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
クロラムフェニコール	0.0005	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)
【合成抗菌剤】					
エンフロキサシン (シプロフロキサシンを含む)	0.005	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
オキシリニック酸	0.01	N.D. (0.05)	N.D. (0.03)	N.D. (*)	N.D. (*)
オフロキサシン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
オルビフロキサシン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
オルメトプリム	0.02	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
クロピドール	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
サラフロキサシン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
ジフロキサシン	0.01	N.D. (0.3)	N.D. (0.3)	N.D. (0.3)	N.D. (*)
スルファキノキサリン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
スルファジアジン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
スルファジミジン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
スルファジメトキシシン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
スルファドキシシン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
スルファピリジン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
スルファメトキサゾール	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
スルファメトキシピリダジン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
スルファメラジン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
スルファモノメトキシシン	0.01	N.D. (0.1)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
ダノフロキサシン	0.01	N.D. (0.1)	N.D. (0.1)	N.D. (0.1)	N.D. (*)
チアンフェニコール	0.01	N.D. (0.02)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
トリメトプリム	0.02	N.D. (0.05)	N.D. (0.05)	N.D. (0.05)	N.D. (*)
ナリジクス酸	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
ノルフロキサシン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
ピリメタミン	0.02	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
ピロミド酸	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
フルメキン	0.01	N.D. (0.04)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
フロルフェニコール	0.01	N.D. (0.03)	N.D. (0.1)	N.D. (0.1)	N.D. (*)
マルボフロキサシン	0.01	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)	N.D. (*)
マラカイトグリーン (ロイコマラカイトグリーンを含む)	0.002	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)	N.D. (N.D.)

単位: ppm N.D.: 不検出 *: 検出されないこと

表2 はちみつの検査結果

項目名	検出限界	はちみつ(カッコ内の数字は基準値)
【抗生物質】		
オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン、 テトラサイクリンの和	0.03	N.D. (0.3)
クロラムフェニコール	0.0005	N.D. (N.D.)

単位:ppm N.D.:不検出

<<マラカイトグリーンについて>>

マラカイトグリーンは、緑色の合成色素として絹・羊毛・黄麻・革・綿・紙等の染色に使用されており、その名前は鉱物のマラカイト(孔雀石)に似た色であることに由来しています。

核酸塩基と親和性を持つ構造から、発がん性が疑われる物質との類似性が指摘され、近年食用動物への使用が制限されてきています。我が国では、合成抗菌剤として観賞魚の水カビ病の治療などに使用されていますが、養殖水産動物への使用は禁止されています。また、欧州等の諸外国においても、養殖水産動物への使用は禁止されています。

食品衛生法上の規制としては、主な代謝物のロイコマラカイトグリーンとの和として「不検出」と定められていますが、輸入うなぎ加工品や輸入サバ加工品等からの検出事例¹⁾が報告されており、問題となっています。

- 1) 厚生労働省輸入食品監視業務ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/topics/yunyu/1-4/0707.html>

【 微量汚染物担当 】